

令和元年・2年度 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業（へき地教育）研究指定校
令和2年度 熊本県教育委員会指定 ICT を活用した「未来の学校」創造プロジェクト研究指定校

研究紀要

研究主題

「わかる・できる」協働的な授業の創造



産山村立産山学園

第1章 研究の目的

1 研究主題

「わかる・できる」協働的な授業の創造

2 主題設定の理由

(1) 教育の動向から

近年の急速な社会情勢の変化の下、新学習指導要領が、小学校では今年度から、中学校では来年度から施行され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。その際、各教科等において、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けた授業改善を進めることが示されている。子供を学びの主体として育成するためには、日々の学びの中で、どの子も見捨てることなく「わかる・できる」という自己有用感をもつことができるような指導が必要である。そして、協働的な学びによって子供同士が学び合うことこそが、一人残らず子供の学びを実現する方法だと考える。「わかる・できる」協働的な授業の創造は、まさに新学習指導要領が求める授業に合致している。

(2) 本村の取組から

本村では、「We have a dream (私たちには 夢がある)」という校訓の下、「産山で教育を受けてよかった」と実感できる教育をめざして小中一貫教育を進めてきた。平成16年度から二学期制を導入、平成19年度に教育特区の認定、さらに、平成21年度からは文部科学省より教育課程特例校の承認を得て、教育改革を行ってきた。また、平成25年度からは、保小中一貫教育が始まった。その中で、「ローカルオプティマム (=本村の学園生に適した教育内容について検討を重ね、最もふさわしい教育効果をあげることをめざす)」というキーワードの下に本村独自の教育課程を編成し、特色ある教育に取り組んできた。こうした本村の取組は、平成30年4月の義務教育学校産山学園のスタートとして結実することとなった。しかし、教育システムは、それを支える個々の実践が機能してこそ初めて効果を挙げる。これまでの本村の歩みを振り返り、ここでもう一度日々の授業という足下をみつめた実践が求められている。

(3) 学園生の実態から

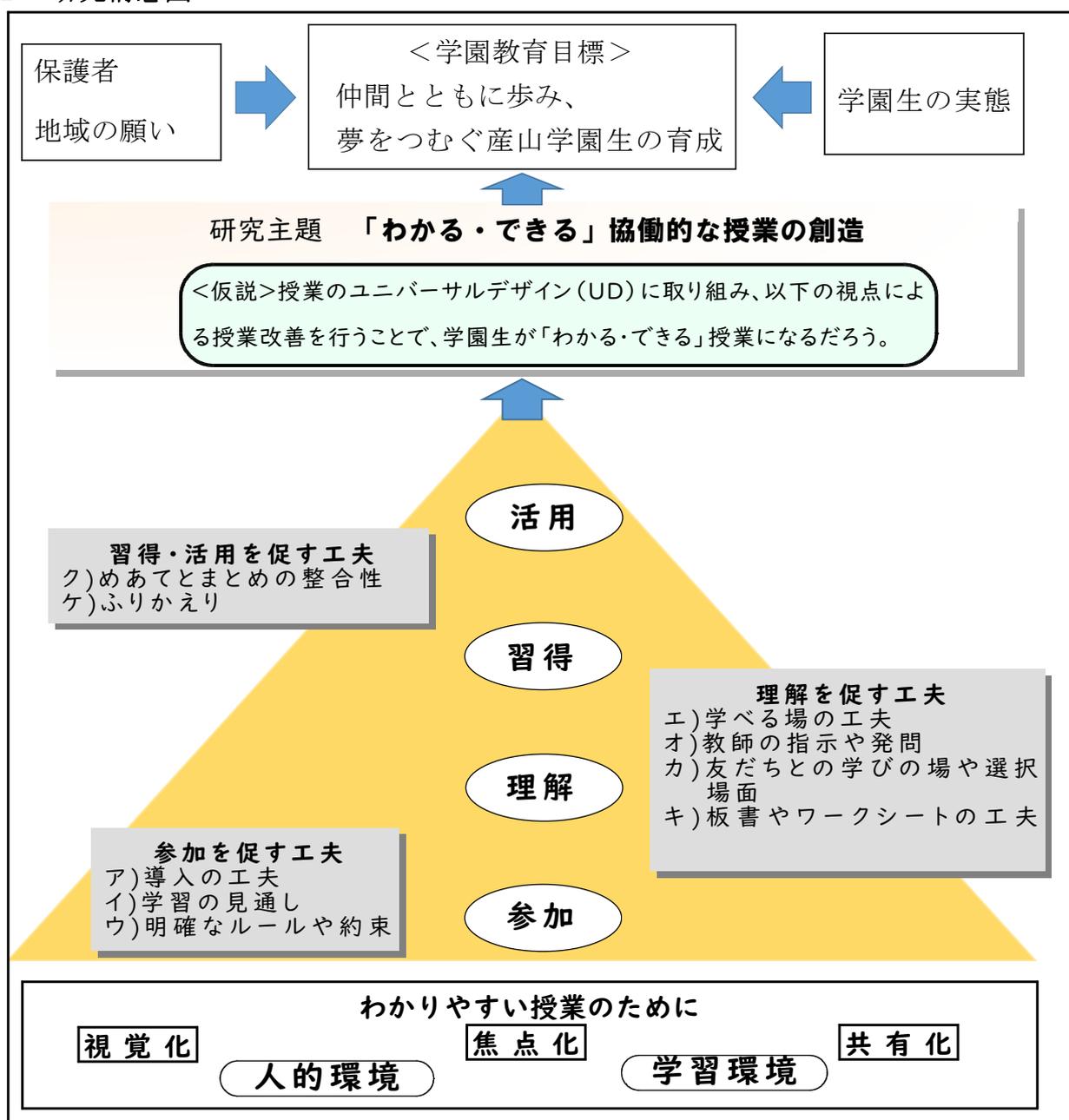
へき地の学校という特性から、学園生の人数に対して、学校では教職員の人数、地域や家庭でも大人の数が多い。また、1人1台のタブレット端末の整備や、漢字検定・英語検定・数学検定等の受検における費用も全額補助されるなど、恵まれた教育環境にある。その反面、自ら学ぶ意欲という主体性に欠ける面があり、学習を苦手としている学園生も多い。以上のことから、研究の主題を設定した。

3 研究主題について

「わかる・できる」協働的な授業とは、学園生が自分たちで課題解決に向け協働的に学習し、その結果達成感・充実感をもつことのできる授業のことである。それを実現するために、各学年、各教科の特性を生かし、様々な形態で子供が主体となった学習活動の時間を増やしていくこととした。その中で、学園生が自分たちから「やってみたい」「解いてみたい」「話し合ってみよう」という必然性のある学習を取り入れ、深い学びをめざしていくこととした。

第2章 1年次の実践

1 研究構想図



2 1年次のまとめ

(1) 成果

- 1時間の学習の流れを示し、見通しをもった学習を行うことで、学園生が「わかる」授業展開となり、学校総体として取り組むことの必要性を実感した。
- 学習の形態を工夫したり、答えを選んで表現したりするペアやグループ学習、ゲストティーチャーの活用や体験活動を多く取り入れた協働的な場づくりが授業改善につながった。
- 授業のUD化に取り組むにあたり、視点の手立てを具体的に[UDポイント]と示し、意識調査を行い、それを省察したことで、教職員の教材研究、支援の改善につながり、学園生の意識や変化が見られた。
- 各教科や行事での発表や説明、ふりかえり活動において、積極的に発言する学園生が増えてきた。

(2) 課題

- 単元を通して「参加」「理解」「習得活用」を促す授業デザインができなかった。1単位時間の授業づくりに焦点を当てていたため、単元を通して「わかる・できる」授業づくりを行っていくという視点が弱かった。単元を通した比較的長いスパンで「めざす子供のゴールの姿」を明確にし、それを子供と共有しながら単元の学習を進めていくことで、それが達成されたときの達成感・充実感も大きくなると考える。
- 「協働的な授業」の捉え方があいまいであった点である。今年度の実践では、ペアトークやグループワークなど、複数人で行う学習形態をとっていたが、その内実は、できる子ができない子に教えるという「教え合い」の形に留まっていた。この形では、子供たちの間に「教える—教えられる」という一方的な関係が生まれてしまう。その意味で、どの子も正解が分からない状態で対等に意見をぶつけ合い、高め合うことによって新たな考え方や解にたどりつくという、「学び合い」には至っていなかったと考える。

第3章 2年次の実践

1 研究の仮説

1年次の課題と本年度の学校教育目標を受け、2年次の仮説とした。

〈仮説〉単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い、高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

単元・授業のゴールの姿を明確にするとは

熊本の学び推進プラン（令和元年12月熊本県教育委員会）によれば、子供たちに育成をめざす資質・能力を確実に育むことができるよう、単元を通して学んだ後の姿（以下、「単元のゴールの姿」という）を設定し、単元などの内容や時間のまとまりを見通して、授業を構想することは大切である。ゴールを明確にすることで、ゴールに迫る単元を通した学習課題が設定され、ゴールの姿を実現するための学習活動も明確になってくる。子供が主体的に見通しをもって学習に取り組み、学習したことをふり返って達成感を感得し、自分自身の学びの変容を自覚し、さらには次につなげる創造的な学びが確立できると考える。

そのために

- ・単元のゴールの姿、1時間の授業のゴールの姿を子供と共有する工夫
- ・授業の最後に、「できた・わかった」という達成感がうまれる終末の工夫

を行う。

学び合い、高め合う学習活動とは

子供たちが学び合う（練り上げる）場面では、『やってみよう』『なるほど』『きっと』というつぶやきなどが生まれることが考えられる。ここで、考えや価値観の違い他者に対し、根拠を明確にして、相手に伝える中で、納得する解を導いていくなど、子供たちが主体的に学びに向かうことが大切である（「熊本学び推進プラン」より）。そのためには何を話し合うのか、視点を明確にしたり、お互いの思いや考えを尊重しながら、聞いたり受け止めたりすることが大切であると考えられる。

そのために

- ・思考ツールの活用と教師のファシリテート
- ・ペア、グループ、全体など、学習形態の工夫
- ・根拠を明確にし、自分の言葉で伝え、相手の考えを理解する場の設定

を行う。

また、熊本県教育委員会及び熊本県立教育センターのご指導を受け、「ICTの効率的な活用」と1年次の取組「授業のUD化（視覚化）（焦点化）（共有化）」で、授業を支える。

2 研究内容

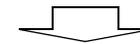
単元のゴールの姿を明確にする（子供が主体的に学習に向かう） 「わくわく」（知的好奇心や興味関心）
 単元のゴールの姿の設定→単元を通した学習課題の設定→学習活動の設定→学習過程の構想→子供と学習過程やゴールの姿の共有

学びの過程

- ・子供が主体的・創造的な学びになるように。
- ・見通しをもって課題解決に取り組めるように。
- ・導入から終末までの時間を大切に。

産山型学習		
過程	児童生徒の視点から	授業者の視点から
① の？ 課 題 今 は 日 ？	◎学習課題（めあて）をつかむ。 ・学習課題（めあて）を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。 「なぜ」「おそらく」（疑問や予想）	◎目標の明確化 ・学習意欲と見通しを持たせるための徹底指導 ※授業前（目標分析・指導計画・実態把握）
② う っ ひ か と っ て で み よ	◎ひとり学び（個人思考）で課題解決に取り組み、自分の考えを持つ。 ・学習課題についてしっかりと考え、それを書くなどして自分の考えを持つ。 「やってみよう」挑戦	◎ひとり学び（個人思考）の時間の確保 ・「読む」「書く」などを位置付けた言語活動の工夫。 ・評価活動（ステップなど）とそれを生かした個別指導。
③ み ろ ん う な で ！	◎学び合って、学習課題（めあて）を解決する。 ・友達と話し合い、さらに考え、学習を深める。 ・先生の話をしっかり聞き、問題を解いたり深まった考えを書いたりしてまとめ、学習課題を解決する。 「なるほど」「きっと」（納得感）	◎個人思考から小集団・集団思考への相互啓発 ・「話す」「聞く」などを位置付けた言語活動の工夫 ◎課題解決のための徹底指導 ・学習内容の整理 ・評価活動とそれを生かした個別指導
④ 返 と ろ め う 振 り	◎学習を振り返り、つなげる。 ・自分や友達のがんばりを振り返り、その良さを認め、次時につなげる。 ・学習したことを振り返る。 「わかった」「できた」「もっとやってみよう」（実感や達成感、更なる意欲）	◎達成感を味わわせる自己評価の工夫 ・自己評価カード等の作成・活用 ・次時の予告と意欲付け

※終末で、子供が「わかった」「できた」と達成感をもち、次の学習につながるような、授業を創造していくために。



授業のゴールの姿を明確に

- ・導入の工夫（切実な課題意識の設定）→主体性

学び合い

- ・根拠を明確にし、自分の言葉で表現する。（論理的思考を促す）
- ・思考ツールの活用。（比較・分類・関連付け・多角的な見方など）
- ・学び合い→協働的（対話的な学び。ペア、グループ、全体など、学習形態の工夫）
- ・何のために、どんなことを話し合うのか、学習が深まるような働きかけ。
- ・お互いの考えや思いを尊重する。
- ・キーワードをもとにまとめる。
- ・自分の言葉でまとめる。
- ・指導と評価の一体化

ふりかえり

- ・「できた・わかった」という達成感を持たせ、自分の学びを自覚させる。
- ・次の学習のつながるようなふりかえりをする。→主体性・創造性

授業を支える
○ICTの効果的な活用（視覚化・思考の可視化）

関心意欲の喚起
・画像の拡大提示や書き込み、音声、動画
個人思考の場
・情報収集・写真や動画

・シミュレーション
・資料、作品の制作
・習熟の程度に応じた学習

小集団思考の場
・プレゼンテーション
・レポート作成
・遠隔地との交流

○授業のUD化（誰もが楽しく学び合うことを目指す授業デザイン）

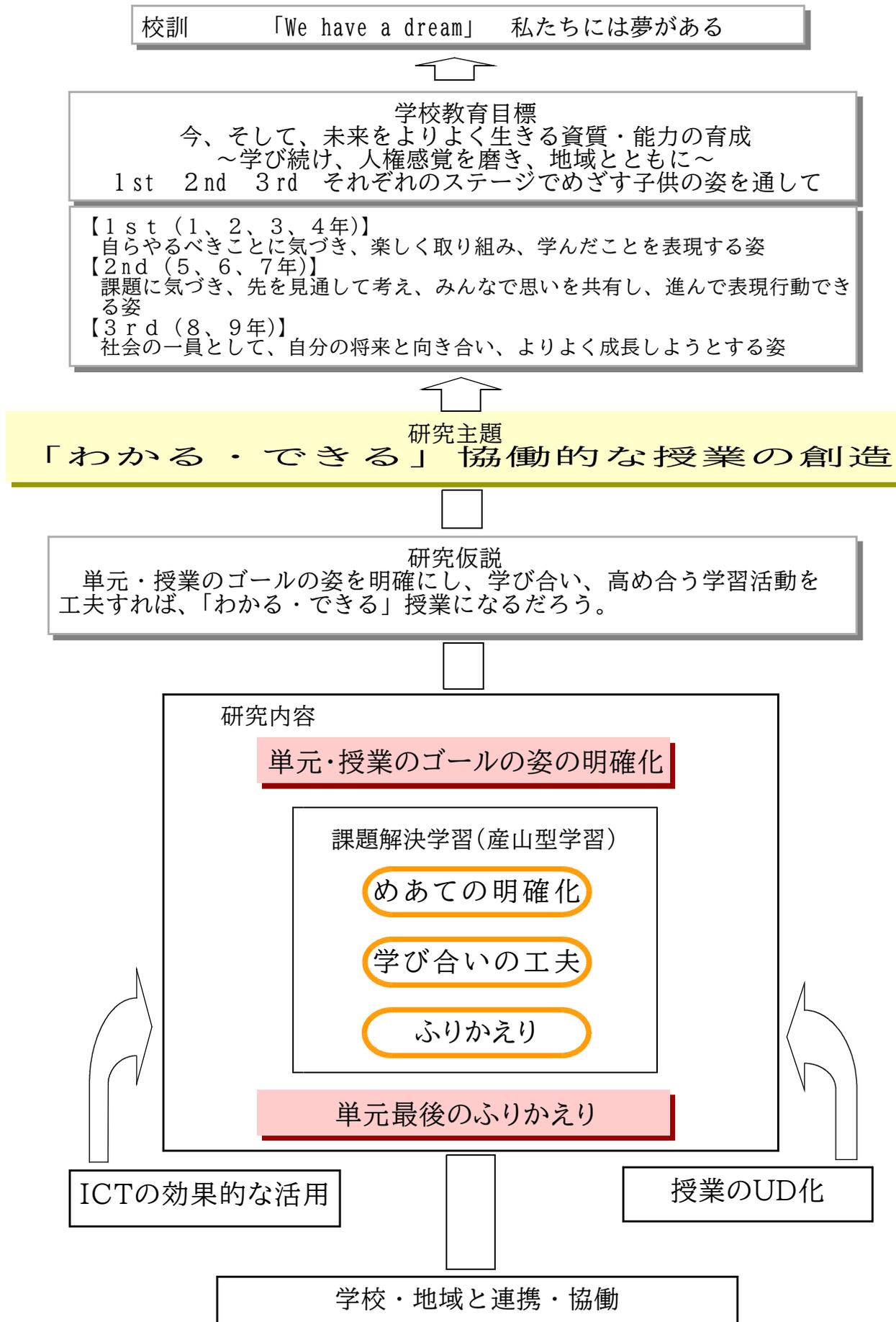
環境のUD化
・時間の構造化
・場の構造化
・刺激量の調整
・ルールの明確化

指導方法の工夫
・共有化
・視覚化
・焦点化
・身体性の活用（動作化/作業化）
・スモールステップ化
・展開の構造化

単元最後のふりかえり

これまでの学習を振り返り、「次は何を学びたいのか」と、主体性につながる未来向きのふりかえり。

3 研究構想図



4 研究の実際 その1 学習構想案

産山学園 第8学年 社会科学習構想案（地理的分野）

期 日 令和2年7月8日（水）第5校時
 場 所 第8学年教室
 指 導 者 教 諭 古 庄 紘 樹

1 単元の構想

単元名		「九州地方～環境問題と環境保全を中心に考えよう～」（教育出版『中学社会 地理』P162～P173）	
単元の目標		豊かな自然環境に恵まれ、かつて都市化・工業化に伴う公害を克服してきた歴史のある九州地方では、「持続可能な社会」構築の必要性から、循環型農業やエコタウン事業など、環境保全の取組が盛んにおこなわれていることを理解することができる。 その中で阿蘇の草原が失われつつあるという社会的問題やその背景について分析し、「持続可能な社会」の視点で草原保全のあり方について自己の考えを論理的に表現することができる。	
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・九州地方は豊かな自然環境に恵まれ、人々は自然と共生した暮らしをしているという地域的特色を理解している。 ・農業形態の変化、畜産業の低迷、農畜産業従事者の減少から阿蘇の草原が失われつつあることを理解している。	・「持続可能な社会」構築の必要性から、九州地方では環境保全の取組が盛んであることを説明できる。 ・阿蘇の草原保全のあり方についての自己の考えを、その背景の分析を基にして説明することができる。	・「持続可能な社会」の実現について、自分とかわかることとして関心をもつことができる。 ・阿蘇の草原が失われつつあるという社会問題に関心をもち、その背景及び解決策を意欲的に追究することができる。
単元終了時の学習者の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
「持続可能な社会」の構築がめざされる中、身近な阿蘇の草原が失われつつあるという社会的問題について関心をもち、その背景について諸資料を活用しながら分析および説明し、その成果をもとにして、草原保全のあり方について、社会に生きる一市民としての自己の意見を形成・表現している姿。			
単元をつらぬく学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
「持続可能な社会」を実現するために、阿蘇の草原をどのように保全していけばよいだろうか。		「なぜ、阿蘇の草原は減少しているのか」という問いに基づき、農業形態の変化、畜産業の低迷、農畜産業従事者の減少という社会的要因によって、阿蘇の草原が減少していることを認識する【社会的な見方】 「阿蘇の草原をどのように保全すべきか」という問いに基づき、社会的な見方を働かせ、自分がよいと考える社会のあり方を思考・判断・表現する【社会的な考え方】	
指導計画と評価計画（7時間取扱い 本時5/7）			
過程	時間	学習活動	具体的評価規準
一（問題の把握）	2	① 九州地方の自然環境、および環境保全の取組が盛んであることを理解する。	【知識・技能】（ワークシート・行動観察） 九州地方はカルデラやサンゴ礁など、豊かな自然に恵まれており、環境モデル都市に指定される都市もあることを理解している。
		② 九州地方において環境保全の取組が盛んな理由を説明し、対照的に阿蘇地方では草原が失われつつあることを理解する。	【思考・判断・表現】（ワークシート） 豊かな自然環境の存在と公害を克服した歴史から「持続可能な社会」構築のために環境保全の取組が盛んであることを説明している。
二（問題の原因の追究）	2	③ 阿蘇の草原が減少している理由を説明する。	【思考・判断・表現】（ワークシート） 農業形態の変化、畜産業の低迷、農畜産業従事者の減少という社会的要因によって、阿蘇の草原が減少していることを説明している。
		④ 阿蘇の草原が減少している理由をシンキング・ツールにまとめる。	【知識・技能】（ワークシート） 阿蘇の草原が減少している理由をシンキング・ツールに構造化してまとめることができる。
三（解決策の立案・吟味）	2	⑤ 「阿蘇の草原をどのようにして保全していくべきか」について考える。	【思考・判断・表現】（ワークシート） 阿蘇の草原の減少という社会問題が起こっている背景の分析をもとにして、その解決策を自分の言葉で論理的に表現することができる。
		⑥ 関連機関の取組みについて知る。	【知識・技能】（ワークシート） 「阿蘇草原再生協議会」が、4つの視点で草原保全に貢献していることを理解している。
四（修正）	1	⑦ 考えた解決策を相互評価し、修正する。	【態度】（行動観察・ワークシート） 「持続可能な社会」の実現について自分とかわかることとして関心をもつことができる。

2 単元における系統および生徒の実態

学習指導要領における該当箇所																							
<p>本単元は、中学校学習指導要領地理的分野内容「(2)日本の様々な地域 ウ日本の諸地域」に該当する。</p> <p>本単元では、「(エ)環境問題や環境保全を中核とした考察」を行う。具体的には、「地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。」とされている。</p>																							
教材・題材の価値																							
<p>本単元「九州地方」は、「環境問題や環境保全」を中核事象として、歴史的背景や産業など、他の事象と関連付けながら考察し、地域的特色を理解することがねらいとされた単元である(動態地誌的学習)。しかし、この学習は、地理的事象を知っておくべき教養として羅列するだけの学習になりがちであり、学習者は地理的事象の暗記を強いられ、学ぶ意義や楽しさを感じにくいという課題がある。</p> <p>そこで、本単元に関わる教科書の内容を、社会的問題に対する意思決定学習として再構成した。身近な「阿蘇の草原」が失われつつあることを社会的問題として設定し、その原因の分析や解決策を考える活動を設定した。こうした実社会との関わりの中で他者と議論しながら意思決定していく学習活動は、学習者の社会的な見方・考え方を成長させることに加え、市民的資質の育成により直接的にかかわることができると思う。</p>																							
本単元における系統																							
生徒の実態(単元につながる学びの実態)																							
<p>■社会科学習(おもに主体性)に関する実態</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査内容</th> <th>とても思う</th> <th>どちらかといえば</th> <th>どちらとも</th> <th>あまり</th> <th>思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会を学ぶことは、現在や将来の生活の役に立つと思う。</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会を学ぶことに、やりがいや充実感を感じている。</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>■阿蘇の「草原」について知っていることを自由に教えて下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草原が減っていつている。 ・牛がいる ・草が生えていて牛がいるイメージ ・野焼きがある <p>■考察</p> <p>表から、本学級の生徒は社会科学習と自分の生活や生き方とのつながりを見出すことがあまりできていない。つまり、テストのための勉強といった捉え方が多く、結果社会的事象への関心や意欲も低く留まっている。膨大な量の知識や語句が登場し、暗記を強いられることで、学ぶ意義や充実感を感じることができていないと推測される。</p> <p>また、本単元の主題と関わる阿蘇の「草原」についても、「野焼きがある」「牛がいる」などの一般的・常識的な記述が多かった。身の回りの社会的事象について関心をもち、それがどうして起こるのかといった原因・理由を分析し、望ましい社会のあり方について考えるといった社会科学習の醍醐味に気づけていないといえる</p> <p>今後の社会科学習においては、自分の生活や生き方とどんなつながりがあるのか不明な無機質な知識の習得・理解こそが社会科学習だと捉えているであろう生徒の認識を、少しでも変容させることが求められていると言える。</p>						調査内容	とても思う	どちらかといえば	どちらとも	あまり	思わない	社会を学ぶことは、現在や将来の生活の役に立つと思う。	0	3	3	3	2	社会を学ぶことに、やりがいや充実感を感じている。	0	1	4	4	2
調査内容	とても思う	どちらかといえば	どちらとも	あまり	思わない																		
社会を学ぶことは、現在や将来の生活の役に立つと思う。	0	3	3	3	2																		
社会を学ぶことに、やりがいや充実感を感じている。	0	1	4	4	2																		

3 指導に当たっての留意点

【研究主題】
「わかる・できる」協働的な授業の創造

研究仮説:単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い・高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

- ①目標(ゴールの場)の明確化…「阿蘇の草原をどのようにして保全していくべきだろうか」について自分の考えを表現できるようになろう、というシンプルでわかりやすい学習課題の設定。
- ②思考の場の確保…資料をもとに、一人ひとりが根拠をもって自分の考えを書く活動、それを踏まえ、対等な立場で学び合う場の設定。
- ③評価の工夫…本時の評価基準表(ループリック)を生徒と共有し、ワークシートに記載しておくことで、生徒自身が採点者となって自分の学習を自己評価できるように工夫する。それにより、「できた・わかった」という達成感を味わうことができるようになるだろうと考える。

4 本時の学習

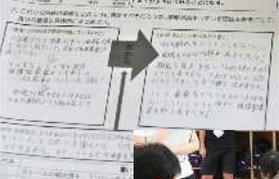
(1) 本時の目標

阿蘇の草原の減少という社会的問題が起こっている背景についての分析をもとにして、その解決策を自分の言葉で論理的に表現することができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動（発問）	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 動画「阿蘇 千年の草原」を視聴する。	○映像から、阿蘇の草原が貴重なものであることをつかませる。【視覚化】
		2 前時の学びをもとに、阿蘇の草原が減少している理由についてふりかえる。 ◇化学肥料の使用などの農業形態の変化。 ◇畜産業の収入減など、低迷してきたこと。 ◇農畜産業の従事者の減少や高齢化。	○作成した思考ツールを手がかりに前時の学習を想起させる。【視覚化】
【学習課題】 「持続可能な社会」を実現するために、阿蘇の草原をどのようにして保全していくべきだろうか。			
展開	30分	3 「阿蘇の草原をどのようにして保全していくか」について、自分の意見（主張）を考える。 ◇農畜産業を行う生産者については、県など（自治体）がお金の補助をするようにする。 ◇農作物の輸入に関しては関税を高めにかけるようにする。（保護貿易）	○展開を通して生徒が取り組むべき活動を1つにしぼる。【焦点化】 ○思考ツールを活用したワークシートを用いることで、考えやすくする。【視覚化】 ○自分の意見が書けない生徒に対しては、一例を示すことでヒントにする。
		4 考えた主張について、仲間と互いに質問し合い、自分の主張が妥当かどうかを吟味する。 ◇自治体がお金の補助をするという場合、そのお金はどのようにしてまかなうのか。 ◇農作物に高い関税をかけてしまえば、私たちは買い物をするときに高い金額を支払わなければならないのではないか。	○電子黒板上で、ワークシートを用いた質問の一例を示す。【視覚化】 ○質問を考える際の視点を下に挙げた例のように示す。
終末	10分	5 質問を受けて、自分の主張を修正する。 ◇地域住民から環境税をとり、そのお金をもとにして農畜産業を行う生産者に対して補助ができるようにする。 ◇輸入の農作物について、関税を高くかけるのではなく、日本からの輸出を増やす。	○ワークシートに質問された内容をメモさせておき、自分の主張の不十分な点や不明瞭な点分かるようにしておく。 ○基準に満たない生徒については、着目させたい草原減少の原因を1つ指定し、その原因にしぼって考えさせる。
		6 本時のふりかえりを行う。	○動画資料を提示し、農業の機械化の様子が分かりやすいようにする。
本時の評価基準（ワークシート） A: B 基準の内容を2点以上述べている。 B: 阿蘇の草原減少の理由に対応して、その解決策を論理的に説明している。 C: B 基準に満たない記述			
【期待される学びの姿】 「Aという原因で阿蘇の草原が減少しているので、Bという取組を行うことで草原を保全していくべきである」という形で、論理的に自分の主張を表現している姿。			

5 研究の実際 その1 授業の実際

過程	学習活動	生徒の姿（教師の見取り）
<p>う — ん 今 日 の 課 題 は ？</p>	<p>前時までの学習をふり返し、めあてを知る。</p> <p>1 動画「阿蘇 千年の草原」を視聴する。</p>  <p>2 阿蘇の草原が減少している理由についてふりかえる。</p> 	<p>○「阿蘇のあか牛がいたことによって、貴重な草原が維持されてきた」というインタビュー内容から、草原保全について関心をもつことができていた。</p> <p>○「牛の数の減少」「草原の草が不必要になった」「草原の管理の人手不足」「畜産農家の減少」「野焼きをする人の高齢化」など、これまでの学習成果を生かして、多様な理由を考えることができていた。</p>
<p>【学習課題】阿蘇の草原をどのようにして保全していくべきだろうか。</p>		
<p>ぶ つ か っ て み よ う</p> <p>ひ と り で</p>	<p>自分の主張を考える。</p> <p>3 貿易の自由化の進展が、農畜産業にどのような影響を与えるかについて理解する。</p>  <p>4 「阿蘇の草原をどのように保全していくか」について、自分の意見（主張）を考える。</p> 	<p>○TPPの発行により、牛肉の関税が38.5%から、最終的に9%になることをワークシートにまとめ、理解することができていた。また、そのことによって畜産農家の経営に大きな打撃となることを理解できた。</p> <p>○思考ツールを活用したことで、「関税の率を引き上げる政策をとる」「農薬や化学肥料などをできる限り使わない循環型農業を行うこと」「阿蘇の自治体から、畜産農家に対して補助金を出す」など、多様な意見を書くことができていた。</p>
<p>や ろ う</p> <p>み ん な で ！</p>	<p>考えた主張について、グループで話し合う。</p> <p>5 考えた主張について、仲間と互いに質問し合い、自分の主張が妥当かどうかを吟味する。</p>  	<p>○畜産農家が減っていることについて、貿易の自由化による影響が今後は大きくなるのではという質問によって、国産牛肉を保護することの必要性に気づいた生徒がいた。</p> <p>○野焼きのボランティアだけでは人が足りないという質問を踏まえ、賃金を出して野焼きを仕事として行うことに考えを深めた生徒もいた。</p>

ま と め ふ り か え ろ う	自分の主張を修正し、ふりかえる。 6 質問を受けて、自分の主張を修正する。	○「化学肥料の使用をなるべく控え、草原の草を肥料として用いる」「ドイツやノルウェーの農業を参考にして、化学肥料や農薬の使用量を減らす」などの記述を書くことができていた。
	7 ふりかえりをする。 	○貿易の自由化で関税が下がっていることに視点を向け、関税の率を保つべきと考え、発表していた。

【単元はじめの生徒の姿】

- ・社会科学習と自分の生活や生き方とのつながりを見いだすことがあまりできていなかった。
- ・「草原」について「野焼きがある」「牛がいる」などの常識的な記述はあるものの、「草原が減っている」という社会的事象について関心をもち、どうしてそれらが起こるのかといった原因・理由を分析し、望ましい社会のありかたについて考えることができない生徒がほとんどだった。



【単元終了時の生徒の姿】

- ・身近な阿蘇の草原の減少という地域の課題に関心をもち、その背景について分析した上で、自分なりの解決策を全ての生徒が考えることができていた。「楽しかった」「今までの社会の授業で一番頭を使った」と語っていた生徒もいた。
- ・単元最後にゲストティーチャーにこれまで考えてきた解決策を発表したことで、学習してきたことが自分の生活とつながっていることに気付くことができた。

○単元終了時のゲストティーチャーへの発表後の感想

- ・僕たちの意見を受け取っていただき嬉しかったです。ですが、実践していくにあたって難しいものもあったと思うので、もっと農業のことを知っていると考えてみたいと思いました。
- ・今日の講演を聞いて、畜産農家の方々が草原の保全に関係されているということを知ることができました。5時間かけて考えた僕たちの案をほめていただいたときは嬉しかったです。
- ・1000年以上も残されている草原なので、さまざまな方法で保全していきたいと思いました。授業で出た意見を基に、草原の減少を止める活動ができたらいいと思います。



産山学園 第4学年 うぶやま学学習構想案

期 日 令和2年10月7日(水) 第5校時
場 所 メディアセンター
指 導 者 教諭 宗 真裕

1 単元の構想

単元名	うぶやま未来計画 勝手にコラボ 『うぶやま茶』プロジェクト 『茶摘みから はじめよう!!』 「稼げる」お茶メニューを提案しよう!! (ふるさと納税返礼品)		
単元の目標	茶摘みの体験活動を通して、 ① 産山の良さやお茶の良さに気付き、 ② お茶でどんなことをしたいか考え、 ③ 伝え、広める活動を通して産山を大切にしようとする心情を培う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 産山村は豊かな自然環境に恵まれ、地域的特色を生かした産業が行われていることを理解している。 お茶の良さを、取材をしたりゲストティーチャーから聞いたりして理解している。 うぶやま茶を使って何をしたいか、どんなことができるか収集した情報を図や文章で、まとめる方法が分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーから学んだり、お茶摘み体験をしたりすることで、自分はお茶でどんなことをしたいか、自分にはどんなことができるか考えている。 自分が考えまとめたことを、伝える相手に応じて、適切な方法で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 産山学園の「茶摘み」に関心をもち、意欲的に活動をし、摘んだお茶で何ができるかなど課題をもつことができる。 体験活動やゲストティーチャーから学んだことを生かして課題をもち、調べまとめたり、発表したりしている。
単元終了時の学習者の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
「うぶやま茶」を通して、自分のやりたいことに気付き、そのためにやらなければならないことについて自ら学び考え、考えたことを表現することによってその考えを広め、やりたいことを実現しようとする子供			
単元をつらぬく学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
お茶にはどんな良さがあるか。 うぶやま茶を生かしてどんなことをしたいか。 (自分の喜び 他者の喜び)		お茶についての話を聞いたり、茶摘みをしたりすることでお茶についての理解を深める。 「うぶやま茶で何がしたいか」の問いで、「探究的な見方・考え方」を働かせる。	
指導計画と評価計画（17時間取扱い 本時14/17）			
過程	時間	学習活動	具体的評価規準
一	4	① 今年度のうぶやま学について考え、お茶摘みについて自分なりの考えをもつ。(2)	【態度】(行動観察・発表) これまでのうぶやま学で学んだ産山村の良さを振り返る。今年度の4年生のうぶやま学の現状を知り、学習の意欲をもつとともに、お茶摘みについて問いかけ自分なりの考えをもつことができる。
		② 「お茶」または、「お茶摘み」でどんなことを学びたい?(1)	【態度】(行動観察・発表) 自分なりに学びたいことを考え、発表することができる。
		③ 佐藤ふきみさん・植松先生に「お茶」について学ぼう(1)	【知識・技能】(ワークシート) 佐藤さんや植松先生から学んだことを書いたり、感想にまとめたりすることができる。
二	4	④ お茶を摘もう!(2)	【態度】(行動観察・ワークシート) これまでの学習で茶摘みに対する意欲を高め、茶摘みをすることができる。
		⑤ 摘んだお茶の葉が どのようにして「お茶」になるか学ぶ。(1)	【知識・技能】(ワークシート) 動画を見て、摘んだお茶の葉がどのようにして「お茶」になるか知ることができる。
		⑥ とどいた「うぶやま茶」を飲んでみよう!(1) ○お茶の注ぎ方を5年生から学ぶ。 ○お茶を注いでみる。 ○自分で注いだお茶を味わう。	【態度】(行動観察・発表) 家庭科でお茶の入れ方を学んだ5年生から主体的に教わるすることができる。 自分で注いだお茶を飲み感想を発表することができる。

三	4	⑦ 「うぶやま茶」を使って どのようなことができるか調べたり考えたりして、まとめる。 「稼げる」お茶メニューを提案しよう！！	【思考・判断・表現】（ポスター形式） うぶやま茶を使った商品を（ふるさと納税返礼品）開発するために、自分なりの考えをもち、まとめることができる。 まとめ方：ポスター形式
	3	⑧ まとめたことを発表したり、アドバイスをしたりしよう。【本時3-2】 ・キーワード：もっとこうしたほうがいいよ！ つたわるよ！ こんなところがいいよ！	【思考・判断・表現】（ポスター形式） うぶやま茶を使った商品を発表することができる。 （方法：ポスター形式） 発表を聞き、根拠を明確にしたアドバイスをすることができる。 （方法：発言 付箋紙等）
四	2	⑨ 産山村の関係者に「稼げる」お茶メニューを提案する。	【態度】（行動観察・ワークシート） 自分の考えたアイデアをアドバイスを生かして、関係者に伝えようとしている。

2 単元における系統および生徒の実態

学習指導要領における該当箇所	
<p>小学校学習指導要領第1の目標を受けて設定した本校のうぶやま学の目標「自分たちが住む地域への関心と理解を深め、情操を豊かにするとともに、多様な学習活動を行い、『うぶやま』に誇りをもち、将来の自己の生き方を考える学園生を育成する。」をもとに、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を設定し、単元を構成している。</p>	
教材・題材の価値	
<p>これまで産山学園の4年生は伝統的に、お茶摘みの体験活動のみを行ってきた。しかし、地域には、実際にお茶摘み体験活動をさせていただきだけでなく、詳しくお話をさせていただいたける方々がおられる。そこで今年度は、そのような地域人材に協力をいただきながら、お茶摘みの体験だけでなく、児童が「お茶」から学びたいことを広め、さらに産山の良さに気づき、その良さを伝え、広めるための表現力を付けることができはしないかと考えた。</p> <p>よって、本教材では、お茶の良さについて学び、茶摘みを体験することで、自分が産山のために何ができるか考える活動を行う。そして、自分が考えたこと、伝えたいことを伝える方法を身に付け、伝えるための表現力を身に付けることができるだろうと考える。</p>	
本単元における系統	
学園生の実態（単元の目標につながる学びの実態）	
<p>■本単元の学習に関する意識の状況 4年生 16名</p> <p>1 うぶやま学は好きですか。 好き 15名 嫌い 1名（好きでも嫌いでもない）</p> <p>2 うぶやま学で、自分で課題（次はこんなことをしたい 学びたいなど）を見つけることができますか できている 9名 できていない 7名</p> <p>3 自分の考えを 人に伝えることは好きですか。 好き 11名 ふつう 1名 嫌い 4名</p> <p>■考察</p> <p>本学級の児童はうぶやま学に対する関心は非常に高く、意欲を持って取り組んでいる。上記で「嫌い」と答えている児童については、普段の学習の様子からは特に意欲がもてていない様子は見られず、取り組むことができている。これまでの学習の様子から、個人差はあるものの、自分の思いや考えを話すことは全体的に得意である。</p> <p>しかし、自分の書きたいことや考えを明確にして文章に表すことは非常に苦手としている。また、相手にわかりやすいように例文などを挙げて文章にすることも難しいという実態が見られる。さらに、これまでうぶやま学で3年間取り組んできているが、児童が「こんな形でまとめた」という実感がなく、これまで携わってきた担任や職員も意識させていなかったといえる。そのため、自分たちが伝えたいことの焦点化ができず、自分の本当に伝えたいことや考えがぼんやりとしてしまっていることも考えられる。</p>	

3 指導に当たっての留意点

【研究主題】

「わかる・できる」協働的な授業の創造

研究仮説：単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い・高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

① 目標（ゴール）の明確化

「稼げる」お茶メニュー（ふるさと納税返礼品）を提案しよう！！

学習の流れがわかるように学習の指示ボードや学習全体の構想図などを提示しておく。

② 思考の場の確保

うぶやま型学習：主体的・創造的な学び及び見通しをもった課題解決学習

産山村の一員であることを日常的に自覚させるために新聞などのメディアを活用する。

ポスター形式にまとめていくことは初めてなので、スモールステップをふみ、具体的に例示しながら作らせていく。

お互いの考えや、思いを尊重しあえるような言葉を遣う。

③ ふりかえりの工夫

これまでの学習や本時をシートにまとめることで、自分がしたいものを明確（主体性につながる未来向きのふりかえり）にできるとともに、自己評価に生かすことができる。

こまめにふりかえり活動をすることで、互いの取組の質が高まるようにする。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

自分が考えたうぶやま茶を使った商品を発表したり、根拠を明確にしたアドバイスをしたりすることができる。【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動（発問）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図、内容、方法等）
導入	5分	1 課題をつかむ。 ① 単元のゴールを確認し、本時の学習課題を確認する。 ◇今日は自分が考えた「お茶メニュー」を出してもっといい提案になるようにみんなでアドバイスを出し合ひましょう。	○前時までの学習を振り返らせる。 前時の変容のプレゼン ポスター形式・資料・写真【視覚化】 ○学びのルール <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学びのルール ◇相手の気持ちに伝わるアドバイスの言い方 ◇アドバイスを受け止めた答え方 </div>
		② 発表をしたりアドバイスをしたりする時の視点をもつ。	○今日の学習の視点を明確にする。 ・伝えるためには ・アドバイスの仕方【焦点化】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 内容について 表現の仕方について </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【めあて】 みりよく的な発表になるように アドバイスしあおう！！ </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【学習課題】 うぶやま茶を使った商品を発表しよう。 もっと「返礼品にしたい」が伝わるためにどんなアドバイスをしますか？ </div>			
展開	30分	2 課題の解決に向けて活動する。 4～5組（1チーム 6分以内） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 発表者：発表をする </div> <div style="text-align: center; margin: 5px auto;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 聞く側：発表を聞く 付箋に書く アドバイスをする </div> <div style="text-align: center; margin: 5px auto;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 発表者：アドバイスを受けて答える </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード：もっとこうしたいほうがいいよ！【視覚化】 つたわるよ！ こんなところがいいよ！ ステップ1 発表 ステップ2 アドバイス ステップ3 アドバイスを受けて答える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 本時の評価規準 【思考・判断・表現】 ・うぶやま茶を使った商品を発表することができる。 （方法：ポスター形式） ・発表を聞き、根拠を明確にしたアドバイスをすることができる。 （方法：発言 付箋紙等） </div>
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 【期待される学びの姿】 ・自分が考えたうぶやま茶を使った商品を発表したり、根拠を明確にしたアドバイスをしたりしている姿 </div>	アドバイスを受けて答える際は、振り返りを意識させる。
終末	10分	3 本時のまとめを行う。	○発表資料（ポスター形式）を掲示し、本時のまとめや振り返りの資料とする。
		4 本時のふりかえりを行う。	○机間指導をしながら、ふりかえりの視点の支援をしたり、発表を促したりする。 【振り返りの視点：5点】 あ：あ～ なるほど か：考えさせられた仲間の意見 う：う～ん、と疑問に思ったこと し：しらべてみたい、もっと知りたいこと どん：どんなことに学びを生かせそうか

7 研究の実際 その2 授業の実際

過程	学習活動	児童の姿（教師の見取り）
<p>う ん 今日 の 課題 は？</p>	<p>前時までの学習をふり返し、めあてを知る。</p> <p>1 前時までの学習をふりかえり、単元のゴールを確認し、本時の学習課題を確認する。</p> 	<p>児童の姿（教師の見取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のふりかえりにどんなことが書かれていたのか確認したことで、今日の発表やアドバイスにいかしたいと、うなずきながら聞いていた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ふりかえりの記述より】</p> <ul style="list-style-type: none"> もっと自分のせつ明をかんとんにすればよかった。 アドバイスでなやみがとけた。 アドバイスを生かしたい。 ポスターをかいりょうしたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> アドバイスが、次につながることに気づいていた。
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; font-weight: bold;"> <p>【めあて】みりよく的な発表になるように、アドバイスしあおう！！</p> </div>	
<p>ぶ つ か つ て み よ う ひ と り で</p>	<p>学習の視点を確認する。</p> <p>2 発表したりアドバイスしたりするときの視点をもつ。</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【採用のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図・文・表現。 商品のわかりやすさ。 など <p>【アドバイスのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> もっとうしたらよくなる。 説明のわかりやすさ。 など </div> <ul style="list-style-type: none"> 発表に対して、「採用」や「アドバイス」をたくさんしたいという気持ちからか、すぐに付箋に書くことができるように準備している児童もいた。
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; font-weight: bold;"> <p>【学習課題】 うぶやま茶を使った商品を発表しよう。 もっと「返礼品にしたい」が伝わるために、どんなアドバイスをしますか。</p> </div>	
<p>や ろ う み ん な で！</p>	<p>発表したりアドバイスをしたりする。</p> <p>3 課題の解決に向けて、活動する。（4グループ発表：①～④を繰り返す）</p> <p>①発表する。</p> 	<p>発表者</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスターを置き、原稿用紙を読みながら発表した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発表】</p> <p>ぼくが考えたふるさと納税返礼品は、「お茶マクラ」です。汗をかいて寝てもほぼほ匂いはない。抗菌で、きんを防ぐ力をもっています。産山学園の3、4年生が摘んだお茶です。ひとつひとつ丁寧に摘みました。洗って使えます。</p> </div>

や
ろ
う
み
ん
な
で
！

②発表を聞いて、付箋紙に書く。



③「採用」「アドバイス」の札を
挙げ、アドバイスする。



④アドバイスをうけ、ふりかえる。



○聞く側は、「採用」と「アドバイス」
の2色の付箋紙に書き始めた。

【アドバイス】発言

- ・もっとゆっくり言った方が、ききやすいです。でも、声の大きさはよかったです。
- ・ポスターの文字の色をかえて、わかりやすくしてもいいと思います。
- ・前を見て、発表した方がいいです。

【採用】発言

- ・指示棒で指していて、よかったです。
- ・題名が見やすいです。
- ・くわしく書けていました。
- ・どんな効果があるのかわかりました。ぱっと見てわかったからです。
- ・写真がよかったです。

○理由も付け加えて発言したり、相手の意見を尊重したりする言い方をしていた。

【さいごに一言】発言

- ・緊張して、早口になってしまいました。採用が多くて、よかったです。

○聞く側の意見を聞き入れ、さらによりよくしたいという気持ちを伝えていた。

ま
と
め
ふ
り
か
え
ろ
う

まとめ・ふりかえり

4 まとめをする。

5 ふりかえりをする。



【ふりかえり】発言

- ・アドバイスをもらったところをよくしていきたいです。
- ・写真がたくさんあってよかったです。
- ・題名がおもしろかったです。

○発表していない児童にも、自分のポスターへのアドバイスになっていた。

【単元はじめの子どもの姿】

- ・自分の思いや考えを話すことは全体的にできるが、自分の書きたいことや考えを明確に順序立てて文章に表すことは苦手としていた。
- ・これまでの「うぶやま学」で、自分が学習してきたことや体験したことを「こんな形でまとめた」という実感がなく、自分が伝えたいことの焦点化ができずにいた。



【単元終了時の子どもの姿】

- ・茶摘み体験やお茶に関わる周りの方々の思いから、「お茶で何がしたいのか」という問いをもたせたことで、自分なりの考えをもつことができた。
- ・ポスター形式にまとめたことで、自分が伝えたいことや相手に伝わる表現の工夫をアドバイスをもらいながら、さらに高めようとすることができた。
- ・他教科では、多くの情報を整理して、自分が伝えたいことをパンフレットにまとめていた。

8 2年次のまとめ（中間報告）

（1）成果

- 「ゴールの明確化」「思考の場の工夫」「ふりかえりの工夫」といった研究内容に対して、「どのような姿をゴールとするのか明確にすることで、何に取り組むべきか、わかりやすくなった」、「授業のゴールから逆算して、授業を組み立てる意識が強くなった。また、ゴールの姿を実現するために、ふりかえりのアウトプットの方法を工夫したい」、「子供の『実現する姿』をさらに高められるような効果的な仕掛けをつくっていきたい」、「単元を通した授業のアイデア、まとめとふりかえりのあり方」など、本研究の目的を正しく理解し、参画する教職員が増えてきた。
- 学園生が、単元や授業のゴールをめざそうと主体的に取り組むようになってきた。ふりかえりの場面では、「あ：あ～なるほど か：考えさせられた仲間の意見 う：う～んと疑問に思ったこと し：調べてみたい・もっと知りたいこと どん：どんなことに学びを生かせそうか」と、ふりかえりの視点をもたせたことで、学園生が自分の伸びを感じたり、さらにこんなことを学習していきたいという意欲が見られるようになった。

（2）課題

- 「ゴールの明確化」「思考の場の工夫」「ふりかえりの工夫」といった視点が明確に打ち出されて、取組はしやすかったように思うが、その中で、「可能な限りシンプルで持続可能なものにしたい」、「めざしたい子供の姿を明確にしないと、共通理解がぶれてしまう」、「先生方がどれだけ共有しているのか、実践をもっと共有したい」という意見もあり、本研究のふりかえりの場を設定し、教職員の思いを交流することが必要であると考えます。
- 研究授業だけでなく、日常的に、どのような授業実践を行い、どのような学園生の姿が見えたのか、その姿からどのような工夫や課題が見えたのかなどの情報交換をしたり、お互いの授業を参観したりすることで、本研究がさらに共有化でき、深まりが増し、今後の授業実践につながると考える。